

株式会社 日本ハイパイル

ものづくり技術

一般型

国内唯一のスライバーニット生地メーカー 多品種小ロット品への対応力を強化

事業内容 多様な業種へ販路を持つ 原料の仕入力とその開発力が強み

2011年(平成23年)に、前会社の設備、技術、営業基盤を引き継ぐために株式会社西岡商店の100%出資のもと設立された企業で、前会社を含め約50年の業歴を有する。

現在、主軸となっているのはスライバーニットの製造・企画販売である。綿をローブ状にしたもの(スライバー)をそのまま編み込むものをスライバーニットと呼び、同社では専用機で編み上げている。生地幅は1mから2m40cmまで対応することができるため、カーペットなどのインテリア製品、毛布などの寝装品をOEMで製造している。インテリア製品及び寝装品の販売先としては、千趣会やス

クロールといった通販会社向けが多い。そのほか、問屋筋経由でアパレル業界の服飾品向けや手芸関係の生地販売など、多様な業種へ販路を持っている。

同社の特徴としては、素材の取り扱い幅が広いことが挙げられる。アクリル、ポリエステルなどの合繊繊維から羊毛、カシミア、キャメル、アルパカなどの天然繊維を独自ルートで仕入れる。合繊メーカーと共同で繊維の素材開発を直接行う関係にあるなど、原料仕入とその開発力は同社の強みである。

補助事業 小ロット・風合い提案を充実させる ジャガードカーペットマシンの導入

従来生地を利用したスライバーニットのインテリア製品は、通販会社向けのものであり、比較的大きいサイズのものも多く、バリエーションもそれほど多くはなかった。しかし、通販会社や小売店舗が商品の販売を行っていくにあたり、オリジナル性の高い商品を取り扱いたいとの要望が増えることが想定される。今後、既存得意先との取引の幅を増やし、新規得意先を開拓していくには、多様な風合いの製品を小ロットで生産できる体制を構築しておく必要があった。

具体的には、柄のバリエーションを豊富にし、色使いは4色までで素材はアクリル、アクリル系、ポリエステル、ナイロン、PP、ウールなど多様な素材を小ロットで対応。後工程では、シーブ調、プードル調、デザインシャーリング、ポリシャーなど多様な風合いの提案を組み合わせることで、他にない商品の提案を試みる。

ただ、提供できる商品の幅が広がっても設備の導入によってコストが上がり、販売価格が上がってしまうのは意味が

ない。既存設備との組み合わせにより、価格を抑え、価格訴求力のある商品提供を狙いたい。

そこで、今回の補助事業では、中国製のジャガードカーペットマシンを購入し、同機械と既存設備を組み合わせで多様な製品の提供を目指した。



▲丸編みの小ロット対応

株式会社 日本ハイパイル

取締役社長 安部 光弘
〒648-0003 橋本市隅田町山内1674
TEL: 0736-37-2855 FAX: 0736-37-2860
URL: http://www.nihon-highpile.jp

(業種)毛織物製造
(設立)2011年11月
(資本金)5,000千円
(従業員)19人

成果

新規性の高いスライバーニット製品 来年度(2017年)から販売開始

機械設備の導入後は、使える糸と使えない糸が出てしまうなど、想定外の事象はあったものの、既存設備を利用して仕上げ加工を行い、製品の試作・開発を行った。その結果、縫製面でより高級感を出すことができ、同社にしかできない新規性の高いスライバーニットの製造することが可能になった。小ロット対応も十分可能となり、得意先ブランド柄でのOEM供給体制が構築できた。

また、新規性の高いスライバーニットであるが、短納期対応も可能な生産体制を既に整えている。通販会社のカタログに載せるまでは販売予測が難しく、急な注文にも短納期で対応していく必要があり、その点では既存商品も新しい商品も、短納期で対応できるようになった意義は大きい。

既存の得意先である通販会社とは新たな商談も進んでおり、今までになかった風合いの新規性の高いスライバーニットを使ったインテリア製品が、来年(2017年)にはカタログに掲載される予定だ。



▲多品種アイデアのコラボ

今後の展開

世界中の素材を自分の目で見て 直接仕入からすぐに生地を製造

今後の事業展開については、保有している設備を有効利用することにより、販売が好調な通販会社向けとなるカーペットなどのインテリア製品群に、スライバーニートをベースとした多様な製品を新たに提供していく方針である。

そのためには、既存の色パターンや大きさ、風合いの組み合わせを増やしていくだけでなく、新たな素材探しも進めていかなければならない。

特に天然繊維であるウールやカシミア、アルパカ、キャメ

ルといった素材の仕入に注力する。商社と代表自らが同行し、南米、オーストラリア、南アフリカ等へ“素材探しの旅”をする予定だ。原料を直接自社で仕入れて、すぐに生地にすることができる企業は少なく、営業や商談においても素材の特徴をリアルに語り、感度の高い営業展開ができることは大きな強みである。

スライバーニット一筋の同社が次に生み出す製品に関係者は期待している。



▲オーストラリアの高級メリノウール



▲編みあがりの状態